

進んでいます「田園未来都市すその」づくり

まちづくりに関するその後の進捗状況の一部を紹介いたします。また、新型コロナウイルス感染症予防に関する下記イラストにある新しい生活様式についてお互いに気を付けていきたいですね。

準高地トレーニング

最新研究&観光大使情報

昨年11月上旬にスポーツ健康科学専門の杉山康司静岡大教授が主導し、静岡大と東洋大の陸上競技部所属の学生が標高1,000mに位置するペンションに宿泊し、準高地での練習に加え、1日過ごすことの身体への影響とその効果を測った。報告書は年度内にまとめる予定。

また、裾野市スポーツ観光大使の松村幸栄さんの協力を得て準高地トレーニングをはじめとした練習環境などのプロモーション動画を作成し、スポーツ関係者から反響を得ている。



《スマホ、パソコンでも情報検索できますよ》
#スポーツツーリズム/裾野市
#すそのびとNo.9松村幸栄さんと入力してください

「新しい生活様式」実践例(抜粋)

<p>感染防止の3つの基本: ①身体的距離の確保、②マスクの着用、③手洗い</p> <p>◆人の間隔は、できるだけ2m(最低1m)空ける</p>	<p>◆家に帰ったら手や顔を洗う</p>	<p>◆会話は控えめに ◆混んでいる時間帯は避ける</p>	<p>公共交通機関の利用</p>
<p>映画、スポーツ等</p> <p>◆公園はすいた時間、場所を選ぶ ◆ジョギングは少人数で</p>	<p>食事</p> <p>◆大皿を避けて、料理は個々に ◆持ち帰りや出前、デリバリーを利用</p>	<p>冠婚葬祭などの観覧行事</p> <p>◆多人数での会食を避ける ◆発熱・風邪症状がある場合には参加しない</p>	<p>働き方</p> <p>◆テレワークやローテーション勤務 ◆会議はオンライン</p>

皆さんの声欄

ご意見お待ちしております。
「高村けんじ後援会だより」または、将来のまちづくりに関するご意見・ご感想をお寄せ下さい。

高村けんじ後援会事務所

住所: 〒410-1111 裾野市久根332-1
TEL: 055-993-0544
FAX: 055-993-0542

メール: kouenkai@powerline.co.jp

◎事務所にもお気軽にお立ち寄りください。

まちづくり

裾野駅西周辺と東地区整備

市内の景観が変わりつつあります

宅地造成を行っています

- 市役所
- きれいになってきた駅前広場
- 文化センター
- 宅地造成と公園を作っている旧材木東側地区
- 新設された佐野から右脇に抜ける道路
- 稲荷地区から久根地区に抜けます
- 東地区のスーパーカダイク東側を南北に通しています(平松~深良線)

《スマホ、パソコンでも情報検索できますよ》
#裾野市都市計画道路整備プログラム
⇒#リーフレットと入力してください

編集後記

◎トヨタのウーブンシティ構想を受けて「田園未来都市すその」が、一歩身近になったような感じがしますね。裾野市の「次世代型未来都市構想」がどんな内容になるのか、ワクワクですね。

◎3面に、シビックプライドの実践例を2件紹介しました。シビックプライドとは、「地域の誇りと愛着を持って、自分自身が参画して地域を良くして行こう」という考え方です。

高村市長のまちづくりの基本は、みんなが誇るまちを、みんなの手で作ることです。みんながシビックプライドをもって、裾野市を市民の手で発展させて行きましょう。

みんなでつくる
すその

高村けんじ

後援会だより

発行: 高村けんじ後援会
発行責任者: 勝又重則
TEL: 055-993-0544
FAX: 055-993-0542
裾野市久根332-1

市長からのメッセージ (近況報告)



1. 新型コロナウイルス感染症対策について (お願い)

ウイルス感染から命を守ることを最優先に世界中が経済・社会活動を停止しました。経済に対する打撃は計り知れないものがありましたが、感染の第一波は収束に向かおうとしています。第二波にしっかりと備えつつ、経済・社会活動を両立させる秘訣は、新しい生活様式の徹底です。後援会の皆様には、感染予防対策を意識しながら、一日も早く明るく楽しい以前の生活を取り戻してください。 ※新しい生活様式については、4面ご参照。

2. トヨタ自動車の未来都市構想への対応 (市政報告)

本年1月、ラスベガスでトヨタ自動車(株)の豊田章男社長が裾野市につくる「未来技術の実証実験都市」構想を発表しました。この構想は、トヨタ自動車東日本(株)の東富士工場跡地を活用し、インターネットを通じていろいろなものが繋がり、ロボットやAI(人工知能)がわれわれ人間の生活を豊かに支える、未来の街をつくる構想です。ウーブンシティと呼ばれる、世界に類を見ない未来型のまちづくりに全世界が注目しています。この機を裾野市のまちづくりに活かすため、「裾野市次世代型近未来都市構想(SDCC構想)」を発表し、一緒に地域の課題解決に取り組む企業を募集したところ、53事業者(200件)の提案がありました。ウーブンシティの外でも、裾野市独自のまちづくりプロジェクトが動き出そうとしています。どうぞご期待ください。

トヨタのウーブン・シティ構想とは

編集子 この構想は、どのような内容なのですか?

市長 トヨタでは、ウーブン・シティ(Woven City=編まれた街)と呼んでいます。

どんな商品も開発にあたっては、実際に人に使ってもらい実証実験が必要となります。

ロボットやAIを使った介護や自動運転など、人間の生活を支える未来技術を実証するにあたっては、人が住んでいるまちで行う必要があります。その場所に裾野市が選ばれたということです。

本年末に生産を終了する工場敷地を利用した新しいまちづくりは2021年初に着工し、将来的には従業員やプロジェクトに賛同する関係者など2,000名ほどが実際に生活しながら、未来技術やサービスの研究開発に関わっていくことになります。



トヨタ自動車広報資料より

新しい裾野市のまちづくり

編集子 構想を受けて、裾野市のまちづくりに影響はありますか?

市長 未来技術の恩恵が、ウーブン・シティにとどまることなく、私たちがすでに住んでいる地域にも届くように、裾野市域全体が未来都市に向かっていくこととなります。

静岡県庁での豊田章男社長、川勝知事との会談でも、ウーブン・シティだけが突出するのではなく、周辺の地域ともうまく調和できるように、企業・県・市の3者がお互いに協力・連携していくことを確認しました。構想発表のインパクトは大変に大きく、多くの企業や研究者の関心の的になっています。民間の資金やノウハウといった民間活力によるまちづくりにシフトする絶好のチャンスです。現在(6月末時点)、SDCC構想に応募していただいた民間事業者の提案を具現化すべく、事業者と市役所との協働によるプロジェクトを立ち上げる準備を進めているところです。 <次ページに続く>

「次世代型近未来都市構想」

編集子 「次世代型近未来都市構想」とは？

市長 裾野市全域がウーブン・シティ構想と連携して未来都市に向かうために策定しました。

ウーブン・シティの外にも、世界中から企業や研究機関が集まるための拠点や、従業員が住むための住宅地、自動運転の実験を行うための道路や駅などの発着点といった基盤整備が必要となります。注目を集めている今だからこそその規制緩和や民間活力の導入など、これまでの発想とは異なる手法を取り入れた未来志向の構想です。

「まちづくり、人づくり、産業づくり」

編集子 具体的にはどういった内容になりますか？

市長 未来技術によって、全国の地方都市が抱えている課題の解決を目指す9分野にわたる先駆的な取り組みです。

◎まちづくり

既存集落や岩波駅・深良地区・裾野駅周辺の基盤整備を進め、集落や駅などの拠点間を結ぶ自動運転技術の導入により、人口減少局面での公共交通と地域コミュニティの存続問題の解決を目指します。

◎ひとづくり

構想には大学や研究機関の参画が見込まれるので、ウーブン・シティもしくは周辺に大学やスーパーサイエンススクールなどを誘致し、それらと連携した教育活動による地域の教育環境の向上を目指します。

◎しごとづくり

AI（人口知能）・ドローン・無人トラクターなどの導入により、担い手不足の解消を目指します。先端技術を使ったスマート農業・林業により、豊かな自然あふれる裾野市ならではの産業に発展する可能性があります。



研究会での議論風景
裾野市ホームページより



民間活力で「田園未来都市すその」づくり

編集子 プロジェクトはどうすすめるのですか？

市長 まちづくりは税金を使って行政主導で行うものと考えられる方が多いと思いますが、このプロジェクトを成し遂げるには行政ばかりではなく、民間活力の導入を含めた市民協働の手法へのパラダイムシフト（認識や考え方の転換）が必要です。350年前、私たちの先人が民間活力を原資として事業展開した「深良用水」の新田開発のような民間活力の積極的なまちづくりへの参画を期待してSDCC構想を発表しました。最先端技術によって裾野市民の豊かな暮らしを実現させる「田園未来都市すその」づくりが、民間企業にとってのビジネスチャンスや有意義な研究対象として展開されるよう、官民連携して取り組んでまいります。

田園未来都市イメージ写真
株式会社空撮サービス提供



編集子 当面の課題は何ですか？

市長 事業者から、現行の法規制の枠に収まるとは限らない次元の異なる提案をいただいています。法律が想定していない分野については、法律の規制がプロジェクトの障壁となる可能性があります。しかし5月末にスーパーシティ法が成立し、スーパーシティの特認認定を受けられれば、こうした規制にも緩和の可能性が開かれました。当面は、市役所の担当部署と事業者とでいくつかのプロジェクトを立ち上げ、スーパーシティの認定を受けるための準備を行っていくこととなります。

<SDCC構想とは>

裾野市では、超スマート社会（デジタル技術を利用して豊かな生活を創造する社会）の到来を見据え、クリエイティブ・マインドを持った市民や企業とともに、デジタル技術やデータの利活用によってあらゆる分野の地域課題の解決を目指すため、「スソノ・デジタル・クリエイティブ・シティ（SDCC）構想」を2020年3月に策定しました。

(裾野市ホームページ)

<https://www.city.susono.shizuoka.jp/material/files/group/11/sdcccousou.pdf>

シビックプライド「誇れるまちすその」づくり

志ある若者たちが頑張っていますよ～



<例1> …人々がふれあう活力ある「まち」をめざして…

◇取組 二本松在住のEさん

4年前に裾野市にもどり、実家の酒店を継ぐことになったEさんは、毎月1回店内を開放して、利用客が飲食をしながら自由に懇談できるサロンを開くことにした。これはただ単に仲間どうしの集まりではなく、自然に生まれた集まりであり、Eさんは語らいの場づくりに様々な工夫を凝らしている。



◇成果：

初対面の人々も仕事のことなど、自然に話し合う環境ができたことにより、このようなサロンは人々が触れ合う活力ある「まち」づくりにつながる機会となっている。

(6月末現在、コロナ感染防止のため語らいの場イベントは休止しています)

<例2> …「地域の力」と「学校の力」をつなぐ…

◇取組 伊豆島田在住のMさん

Mさんは、市内小学校スクールコーディネーターであり、コミュニティスクールの要として活躍している。Mさんは地域の人々と子ども達を結びつけ、その力を子どもたちの教育活動に活かしている。



◇成果

地域の人々と子どもたちがともに活動することは、子どもたちのコミュニケーション能力や社会性の向上を促し、地域の人々にとってもコミュニティ内の交流の増加や強化に繋がっている。

こうした活動は両者にとって教育的に有意義な機会となっている。

◆お願い

お近くの幼稚園、小・中学校にはスクールコーディネーターがおります。

スクールコーディネーターにご協力を頂ける方は直接学校等にお問い合わせください。

他にもシビックプライドを持った“ひと”はいっぱいいると思います。その人たちと地域の人々とのつながりや輪を強く大きくできればいいなと思います



★・・・このような活動は市民にあまり知られていません・・・★

ポイント：「市民の有志」、「※地域づくりを考えている人たち」、「まちづくり行政」一緒になって、誇れるすそのを盛り上げてくれている人たちを応援していきたいですね。

※「地域づくりを考えている人たち」とは、自ら行動している人や市から委嘱された人、NPOの関係者等